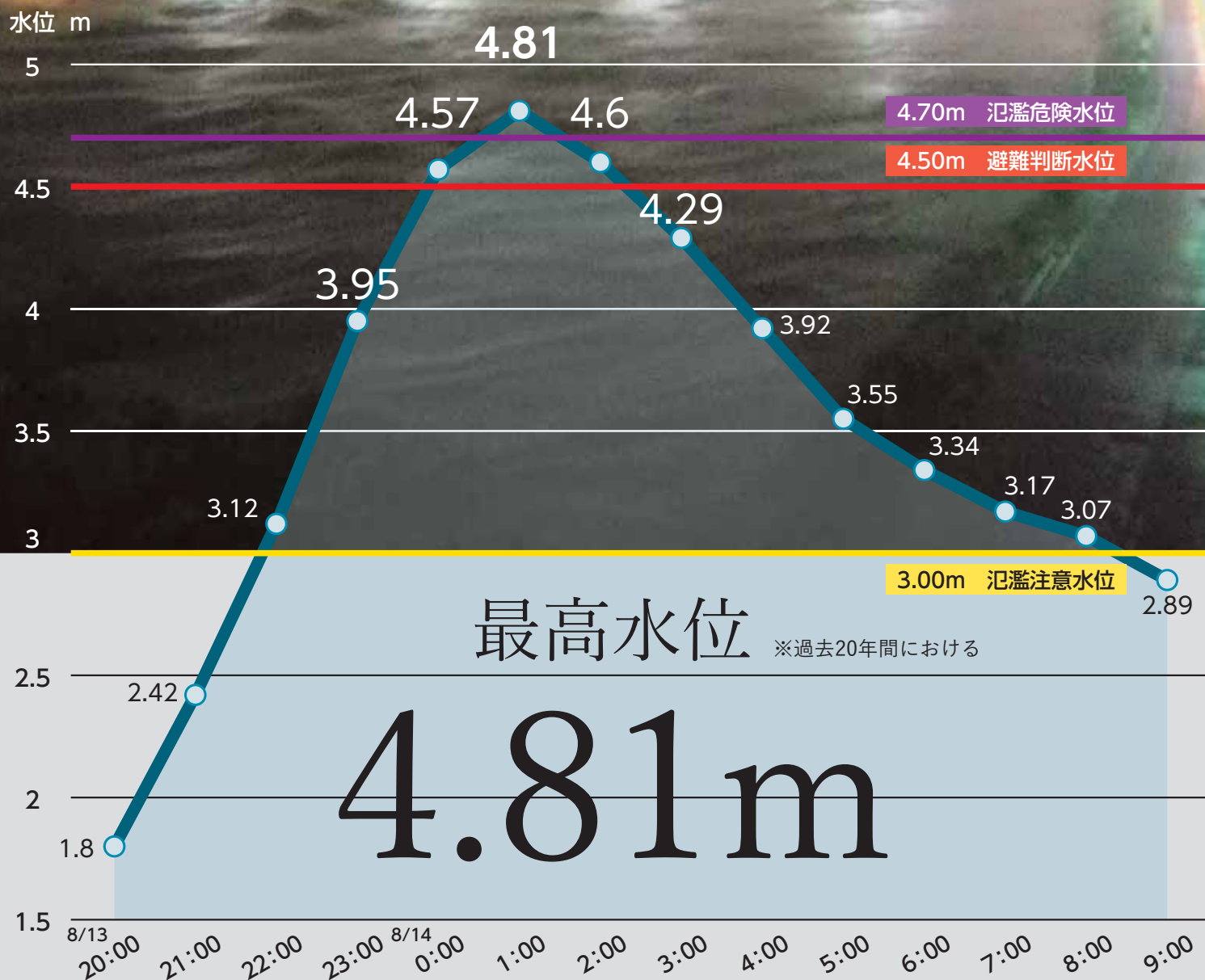




この写真は、昨年8月13日から降り出した大雨によって増水した土岐川を、国土交通省の土岐水位観測所のライブカメラで撮影したものです。上流に見えるのが土岐津橋で、今にも土岐川の水が橋を超えそうなのが見て取れます。

グラフのとおり、土岐川の水位は数時間で一気に上昇し、8月14日の午前1時には氾濫危険水位である4.70メートルを超え4.81メートルとなりました。

この大雨では、市内でも道路ののり面の崩れや冠水、河川護岸の崩れなどがありました。大きな被害には至りませんでしたが、市民の4,512世帯、約1万人に対し避難指示が発令され、多くの方が眠れぬ夜を過ごしました。

災害はいつ起こるか分かりません。これからの出水期に向けて事前の準備をして、自分や大切な人の命を守りましょう。

いざという時のために備えよう

「洪水・土砂災害ハザードマップ」で安全な避難経路を確認しよう。

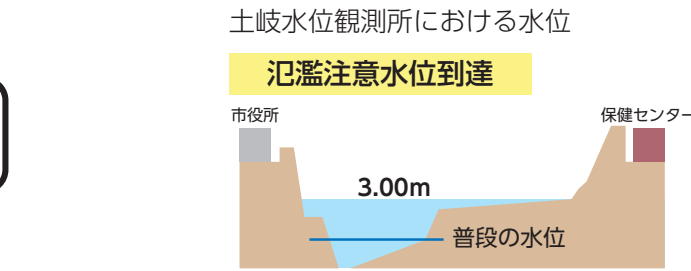
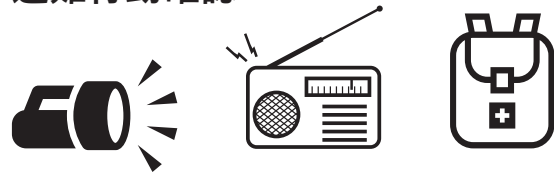
土砂災害により被害の恐れのある箇所と、浸水想定区域や水害危険情報などを掲載しています。
※建設総務課および各支所にて配布しています。

問 建設総務課（内線551）

情報収集をしましょう（災害情報がわかります）

土岐市情報提供サービス 気象情報や断水などの緊急性が高い情報や、防災無線情報をお知らせします。					土岐市ホームページ 避難指示など、災害に関する情報
✉メール (スマホ)	✉メール (ガラケー)	LINE	Twitter	Facebook	
					
岐阜県総合災害ポータル 気象警報、注意報発表状況、避難情報などをお知らせします。					岐阜県川の防災情報 川の水位情報などが確認できます。
					
ぎふ土砂災害警戒情報ポータル 土砂災害危険度情報や雨量情報などが確認できます。					

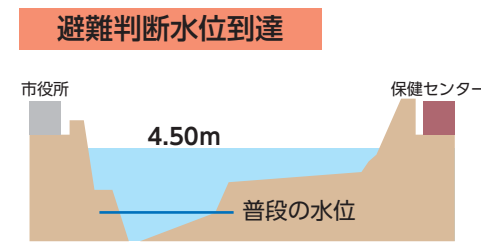
避難行動確認



大雨・洪水警報

高齢者、障害のある人は

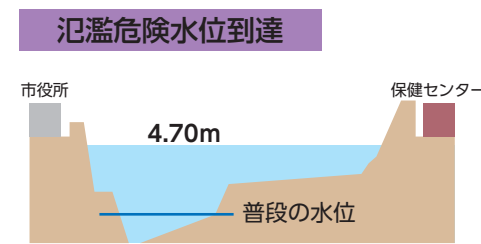
危険な場所から避難



土砂災害警戒情報

災害の恐れ高い

危険な場所から全員避難



災害発生

大雨特別警報

命の危険、直ちに安全確保

避難する場所、距離などによって避難のタイミングは異なります。
自宅の外に避難をする場合は、雨が強く降る前には避難を開始しましょう。

問 危機管理室（内線511）



当時の様子
14日午前0時、土岐市駅から中央橋を通過して帰宅する途中、土岐川の水位がかなり上昇しているのを目にし、恐怖を覚えながら御幸橋を通りました。妻木川もかなり水かさが増えており、自警団として出動するのも時間の問題だと思いながら家に着きました。
午前1時頃、自警団の団員に招集がかり、すぐさま現地へ駆け付けました。私が現場へ駆け付けた時には、写真1の水位になっていました。先に現地にいた人の話では、橋桁の部分まで水が付いていたようです。弱まる様子もない雨の中、現場に緊張が走りしました。警察や市と連絡を取りながら、集まった団員5人で陸間を閉めたとき、少しほっとしたことを覚えています。



御幸町後援隊長 佐橋 伸幸さん

今回の経験から
御幸町の自警団は現在、20代から50代までの約20人で構成され、自分たちの地域を守るという想いで活動しています。
例年、市や警察などと協力し、陸間訓練を行っています。この2年間新型コロナウイルスの関係で現場での訓練ができませんでした。あとき陸間を無事閉められたのは、自警団の中で連携が取れていたこと、これまで訓練を重ねてきたことにより、戸惑うことなく操作できたのではないかと感じています。
水位が上昇した土岐川や妻木川を目の当たりにして、この状況は「いつでも起こり得る」と普段から危機感を持ち、起こった時のシミュレーションをしておくことの大切さを実感しました。

前ページで紹介した8月13日から降り始めた大雨では、市内各所の河川も水位が上昇しました。普段は穏やかな流れの妻木川も増水し、越水（河川の水が堤防の高さを越えてあふれ出すこと）を防ぐため、御幸橋（土岐津町の右岸の陸間を津路町の自警団が、左岸の陸間を御幸町の自警団が閉めたこと）で、越水を防ぐことができました。
今回は、緊迫した状況の中、陸間を閉めた御幸町の後援隊長の佐橋伸幸さんにお話を伺いました。



写真1 水位が上昇した妻木川と御幸橋



写真2 陸間を閉める自警団



危機管理室
室長 鈴木 正志

避難すること
皆さんは「避難してください」と言われたらどんな行動をとりますか？まず思い浮かぶのは、学校や公民館など、市が開設する避難所へ行くことではないでしょうか？もちろん避難所に行くことが最も安全であればいいでしょう。しかし、避難所に行くまでも危険は潜んでいます。過去には大雨の中、避難所に避難しようとした人たちが用水路で流されて命を落とすという痛ましい事故もありました。
そもそも避難とは「難を避ける」、「難から逃れる」ことです。自警団が安全であれば自宅にとどまるのも選択肢のひとつです。避難が遅れた時などは建物の2階など少しでも高いところへ避難、いわゆる「垂直避難」も検討してください。また、安全であれば親戚や知人宅、ホテル、車の中、地域の集会所などに避難しても良いと思います。そのためには、ハザードマップなどを活用し、自分が住んでいるところ（その時いるところ）にどのような危険が想定されるかを事前に知っておくことが大切なのです。
また、コロナ禍において分散して避難することは、感染症拡大防止対策として有効です。